



雲の上に 鳴きつる雁の 寒きなへ
萩の下葉(したば)は もみちぬるかも

11月の万葉集 巻8-1575 高橋 安麻呂

雲の上で鳴いている雁の音が寒々と感じられる。折も折、お屋敷一帯の萩の下葉はすっかり色づきましたね。なんと見事なことでしょう。

学年末に向けての取組を!

秋が一段と深まり、朝夕はめっきりと冷え、寒ささえ感じる頃となりました。町内にある公園や神社のイチヨウ、エノキ、ケヤキ、ナンキンハゼなどの木々も緑から黄色や赤に装いを変えはじめ、秋の日差しを浴びて鮮やかな色のコントラストを醸し出しています。



学校園では、2学期も後半に入り、子どもたちにとっては学習をはじめとして、様々な園行事や学校行事にこれまで以上に集中して取り組むとともに、その成果を出さなければならない時期に来ています。4月からこれまでに積み上げてきた様々な学習や行事等の取組の成果を検証しつつ、各学年の終わりに子どもたち一人一人に身に付けさせたい様々な力があります。

例えば、幼稚園や保育園では、「健康な心と体・自立心・共同性」など幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿が示されています。また、子どもの主体的な遊びの中で学びを通して、自尊心、自己肯定感、協調性、思いやり、社交性などの非認知能力の育成もとても重要です。



小中学校では、最も大切である各教科の学力とともに主体的・対話的で深い学びの力、様々な人とのコミュニケーション力、他人を思いやる優しさや自分を叱咤激励する厳しさなど、人として生きていく上で当たり前の力を付けてもらいたいと思っています。特に、中学3年生にとってはこれからの人生を左右するであろう大切な進路選択のまっただ中です。誰もが経験する人生の中では初めての節目(15の春)となる選択の時期です。それだけに、これからの一日一日、学習を中心と



した学校生活全般の取組が本当に大切になってきます。

教育委員会としても常に「子どものために」を念頭に置きながら、教育の主人公である子どもたちのために汗をかいていきたいと思っております。どうかご家庭や地域でもお子様への温かなお声かけをお願いいたします。

教育委員会の取組

第62回広陵町文化祭を開催しました!

11月3日(金)から5日(日)までの3日間、さわやかな秋晴れの下、中央公民館と中央体育館において、文化祭を開催しました。文化祭に先がけ、3日の午前9時からかぐや姫ホールで開会式を行いました。特に今回は、広陵中学校・真美ヶ丘中学校の2年生を対象に、GIGAスクール構想によるChromebookの多様な活用の一環として楽しみながらデジタルアートの創作機会やデジタルスキルを高めることを目的に、初めて文化祭ポスターのデザインを募集しました。応募作品の中から厳正な選考を行い、その結果、最優秀作品には広陵中学校の竹村桃音さんの作品を、また入選作品10点を選定して表彰式を行いました。



10時から、かぐや姫ホールで中央公民館活動発表会が行われ、広陵中学校吹奏楽部をはじめ、フラダンスやコーラス、お琴、尺八、日本舞踊、詩吟など、中央公民館を中心に活動されている個人・団体の発表がありました。本年4月に中央公民館は開館50周年という大きな節目を迎えており、発表された方々はこれまで以上に、気合いが入った素晴らしいパフォーマンスをしていただきました。

中央体育館アリーナでは、文化展覧会が開かれ、絵画、書道、俳画、写真、華道、陶芸など15部、467点の力作が展示されていました。また、中学生絵画展や中学生ポスターデザイン展、そして箸尾準工業地域から出土した土師器や須恵器などの文化財発掘速報展、日本の伝統文化に触れる野点もアリーナ内で行われました。体育館格技場では、保育園・幼稚園に通う園児の作品展があり、運動会やいも掘りなど園行事で心に残った情景を絵で表現した作品を多くの保護者・祖父母が見に来られ、一つ一つの作品に感嘆の声をあげておられました。



4日(土)には、中央公民館内の各部屋や駐車場特設テントでは、参加体験型教室として、着付けやお琴、尺八、文化財ガイドの会による鑄造体験などが行われました。この3日間を通して、数多くの方々がこの文化祭に足を運んでいただきました。裏面へ

町人権セミナーで箸尾地区をフィールドワーク！

今年は、広陵町人権教育推進協議会が発足して50年目に当たることから、人権セミナーとして地元を見つめ直すという意味をこめて、10月24日(火)午後から箸尾地区のフィールドワークを実施しました。「教行寺寺内町から箸尾城跡を歩く」と題して、元奈良県同和問題研究センター所長で、現世界人権問題研究センター研究員の吉田栄治郎さんを講師に招いての研修でした。



はじめに、講義として箸尾元氣村の会議室で、吉田さんから江戸時代、浄土真宗大谷派寺院として、大和国の拠点であった教行寺の当時の状況を聞きながら、近世大和における身分制度や箸尾の歴史について、当時を振り返りました。



教行寺は、一般に「箸尾御坊」と呼ばれる真宗大谷派の中本山として知られています。檀家寺院としては奈良県最大の本堂があり、当時は寺内町として商工業の業者が集まって栄えたようで、明治から大正時代には料亭・映画館もある奈良県中央部最大の商業町として発展しました。

箸尾城跡は、大福寺の境内にあり、箸尾氏の居城であったところです。箸尾氏は大和武士団の中核として筒井氏や越智氏等と並ぶ戦国大名として栄えましたが、箸尾氏惣領家(本家)は大坂夏の陣によって滅亡したようです。



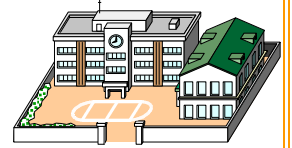
講義後は、教行寺(山門・説明板・本堂・鬼瓦)、箸尾城跡石碑、櫛玉比女命神社(説明板・拝殿・境内)のフィールドワークに出向き、吉田さんから現地での詳しい説明をしていただきました。また、教行寺では、住職の奥様から本堂横の対面所・書院も案内していただき、荘厳で由緒ある建物に皆さんは感動されていました。櫛玉比女命神社では見学途中に宮司さんが作業の手を止めて、神社の由緒などを説明してくださいました。



私にとって、教行寺は「御坊さん」という呼び方で幼い頃から親しみ、境内では友達とよく遊んだ思い出深いお寺でしたし、櫛玉比女命神社は戸閉て祭りで有名であり、毎年のように地車と夜店に誘われて行った神社でした。それだけに、今回のフィールドワークは懐かしさとともに箸尾という歴史的な部分と地元を見つめ直し、再発見できたとても良い機会を与えていただいたと思います。

学校の様子

広陵北小学校



親子観劇会を開催しました！

10月12日(木)に創立150周年記念事業のひとつとして、PTAの方々にもご協力いただき、親子観劇会を実施しました。2回公演をお願いし、自分たちで楽器を演奏するワークショップにも楽しく参加しました。「もったいないミュージカル」ということで、SDGsについて考える機会にもなりました。



真美ヶ丘第一小学校

SDGsに貢献しよう！

広陵町は、SDGs未来都市に選定されています。10月13日(金)に、5年生が「せかい!動物かんきょう会議」を行いました。これは、子ども・若者・大人たちが動物の立場になってSDGsに向き合い、自然と人間が共生・共存していくための解決策を話し合う交流プログラムです。一人一人が動物になって、楽しく真剣に会議をしました。11月に2回目、12月に県外他校とオンラインで交流する予定です。また、一学期より、「ユニクロ服のチカラプロジェクト」にも参加しています。これは、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)と共に取り組む参加型の学習プログラムです。今後、児童が主体となり、着なくなった子ども服を地域で回収し、服を必要とする難民などの人々に届けられます。今後も、身近なSDGsに取り組んでいきます。



真美ヶ丘第二小学校

いも掘りに歓声！

11月2日(木)、低学年の子どもたちが、地域の方のサツマイモ畑にいも掘りに行かせていただきました。掘り進めると、とても大きなサツマイモが土の中から顔を出し、子どもたちは歓声を上げていました。



今月の一言

人間はその人の思考の産物にすぎない。

人は思っている通りになる。 マハトマ・ガンディー
「自分はできる人だ」「できるようになりたい」と思う人は、実際にできるようになっていくし、「自分はダメな人だ」「きっと無理だ」と思う人には、実際に実現できる日はやってくるのではない。

